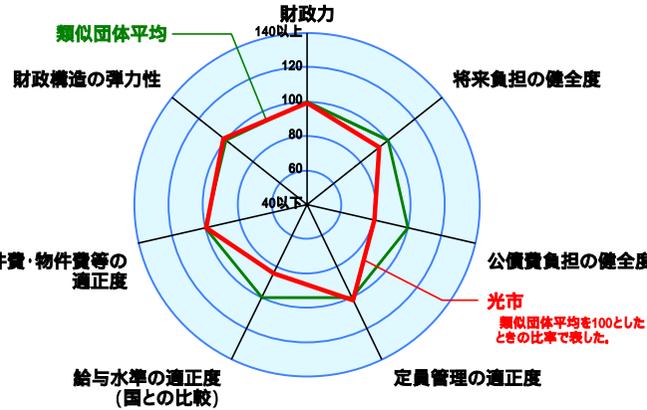
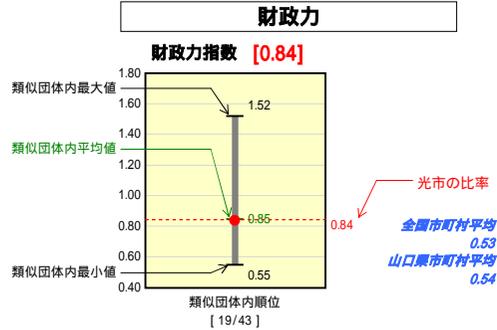


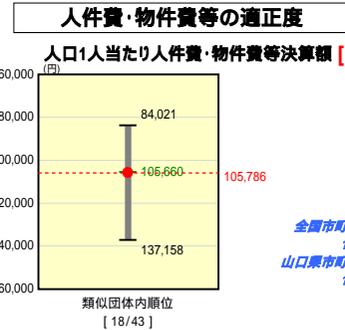
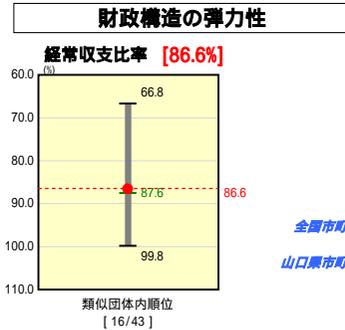
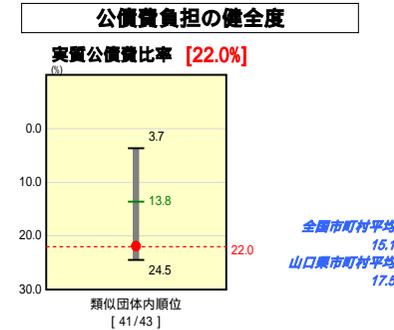
市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

山口県 光市

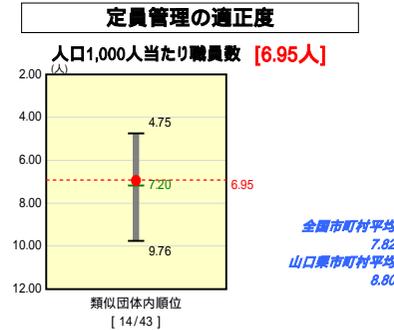
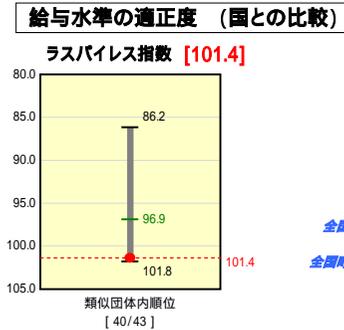
人面	口積	54,965	人(H19.3.31現在)
歳入	総額	21,443,601	千円
歳出	総額	20,575,766	千円
		837,155	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。



人員費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人員費には事業費支弁人員費を含み、退職金は含まない。



分析欄

財政力指数:
類似団体の平均をわずかに下回っているが、業績好調の大手事業所を中心とした法人市民税の増収などにより、前年度に比べ0.03ポイント改善されている。今後とも、財政基盤強化のため、市税等の収納率向上など自主財源の確保に努める。

経常収支比率:
市税の大幅な増収に加え、経常的な内部事務経費の縮減などにより、類似団体の平均を上回っていた前年度に比べ5.0ポイント改善し、類似団体の平均を下回った。その結果、目標としている「平成21年度末90%以下」の早期達成に至ったが、引き続き、徹底した歳出削減など財政改革に取り組み、

人口1人当たり人員費・物件費等決算額:
類似団体の平均をわずかに上回っているが、職員数の減少や歳出削減の取組などにより人員費、物件費とも減少傾向にあり、前年度と比べ人口1人当たり3,162円減少している。今後とも、各種手当等の見直しによる人員費の縮減や、予算の枠配分の実施等により内部事務経費のさらなる削減に努める。

ラスパイレス指数:
前年度より3.1ポイント上昇し、類似団体平均・全国市平均を上回っている。今後とも、各種手当の見直しや給与制度・運用水準の適正化に努める。

人口1人当たり地方債現在高:
前年度に比べ人口1人当たり1,394円減少しているが、類似団体の平均を上回っている。借入額が償還額を下回っているため市債残高は着実に減少しており、目標としている「平成21年度末の市債現在高210億円」の早期達成に至った。今後も、事業の厳選等により市債発行の抑制に努める。

実質公債費比率:
類似団体の平均を大きく上回っている。主な要因は、公営企業に係る起債の償還がピークを迎えたことなどにあるが、前年度と比べると0.4ポイント改善している。今後も、市債発行の抑制などにより着実に改善を図ることとし、23年度までに1.8%未満の達成を目指す。

人口1,000人当たり職員数:
類似団体の平均を上回っていた前年度に比べ0.17ポイント減少し、類似団体の平均を下回った。これは、定員適正化計画に基づき、効果的・効率的な職員配置を進めたことなどによるものであり、目標とする「5年間で10%(44人)の削減」についても早期達成を見込んでいる。